

種子島家，家譜による台風*

吉 田 一 男**

1. はしがき

南西諸島の最も北にある種子島に筆者が在職中にその島の島主の種子島家に約300年に渡る家譜の現存することを知り、これを拜見してその中より台風に関するものを主として書出した。これをさらに日本気象史料により、本土に影響のあったものと合せ考えて昔日の台風進路を調べてみたものである。

2. 種子島家の歴史

種子島家は平清盛の孫にあたる平信基により始まる。平信基は北条氏に捕えられて鎌倉に幽閉された。しかし鎌倉の漁師13名により、南海の種子島へと逃がれた。種子島では口永良部島他南海の12島を平定して初代島主となり、種子島家と称した。

その後代々世襲して現在28代に至っている。この間、13代時堯のときにポルトガルの難破船が漂着して鉄砲を伝え、永い間種子島銃として伝えられていることは良く知られている。

また18代久基のときには琉球より甘藷を持帰りこれを島内に植えて繁殖を計りこれを広めた。久基は栖林様と云われ甘藷の神様として現在でも九州では知られている。この甘藷は後に薩摩芋と云われているものである。

この様に由緒ある家で約300年続き、その間家譜は元和元年(1615年)より現在に続いている。

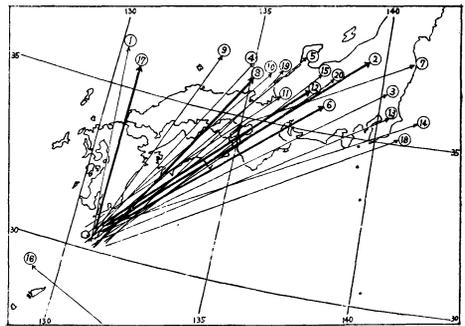
3. 種子島家家譜

家譜は和紙横とち本に筆にて表の如く、簡単に災害及び被害を書かれており、台風の大きさや島への接近等は明らかにできない。表の番号は日本気象史料に合うものみに付けてみた。この番号の付いたもののみを月別にみると、太陽暦の8月に5個、9月に13個、10月に3個となっており、秋台風の多いことを示している。

4. 種子島付近を通過した台風の進路

種子島付近を通過した台風の進路種子島家、家譜と日本気象史料とにより台風の進路を求めたものが図である。

しかしこの図は、種子家家譜よりは島のどちら側を台風が通過したか台風の強さがどんなものであるか考えることは無理なので、種子島を基点として日本気象史料による被害地を結ぶ直線で示した。



種子島付近を通過した台風の経路
(1615年～1860年)

このうち災害の多かったものは2, 6, 8, 12, 17で図中太線で表わしている。このうち特に17については、気象庁予報部発表の3箇月予報資料〔季第292号〕の過去のA級暴雨風の表を見ても過去における最大のものである。

進路を見ると北東進して本州を襲うものが多いことをしめしている。

5. むすび

台風銀座と云われる種子島で、過去の記録がこの様に良く残されていること珍らしく、また一般には知られていないのでこの誌上で紹介した。調査については不十分であるが皆様のお役に立てばと筆を取った。

* Typhoons recorded Memo "Tanegashima"

** Kazuo Ysoshida 予報部予報課 —1963年4月23日受理—

種子島に於ける風水害年表(1)

番号	西歴	年号	年月日	太陽曆 月日	種子島家々譜による	日本気象史料による
1	1615	元和 1.	4. 29	5. 26	自此日至5月29日雨莖永雲元峯山門 80間 4名庄死	
	1637	寛永14.	8. 28	10. 16	安城・現和雨雹困 8.9寸 田島多損	
	1669	寛文 9.	8. 11	9. 6	自夏至至秋2大風破田島許多	寛文9年8月11日 九州山陽諸国大風雨洪水、熊本島原、徳川夷紀、山鹿素行日記
2	1672	寛文12.			牛多死 存者18.9頭	
	1680	延宝 8.	4. 29	5. 27	自此5月29日迄日夜甚雨莖永村雪子 峯8軒埋没 男女死48庄死	
3	1688	元禄 1.	8. 18	9. 14	終日大風潮水害海辺人家尽漂流倒壊 家屋 849, 破船 22, 牛馬斃死 175, 穀損害 740石	元禄1年8月19日 美濃国大風雨洪水, 大垣, 大垣市史, 東落史稿
	1691	元禄 4.	7. 17	8. 11	坂井村現和村安納村降雪	
4	1696	元禄 9.	9. 8	10. 4	大風倒壊家屋多数五穀 1,200俵	元禄9年9月9日 讃岐国並京都, 江戸風雨, 讃岐災異年表, 続史愚扶, 元禄宝永珍話
	1701	元禄14.	8. 11	9. 13	大風島中飢饉	元禄14年8月12日 山陰諸国, 風雨洪水, 因府年表
5	1702	元禄15.	10. 27	12. 16	自夜牛至黎明大風浪前ヶ浦破損10余	
	1706	宝永 3.	9. 13	10. 10	大風田畑多損壊	
6	1706	宝永 3.	10. 4	11. 8	地震潮水害庄司浦10軒流出	
	1709	宝永 6.	5. 9	6. 10	大風倒壊家屋 103, 牛馬斃死 1,102	
	1738	元文 3.	8. 5	9. 17	洪水峯崩各穿田畑荒廢死牛馬多	元文3年8月12日 讃岐国並京都大風雨, 讃岐災異年表, 日本災異史
7	1743	寛保 1.	7. 21	9. 2	大風洪水田地 2,265石, 倒壊 2,996 斃死馬 113, 牛 21	寛保1年7月21日 薩摩, 四国, 近畿, 大風雨洪水, 西藩野史, 松山叢談, 熊野史, 宇治山田市史, 讃岐災異年表, 日本災異志, 大阪府誌
	1746	延享 3.	8. 23	10. 8	大風大潮田地 2,160石, 流失家屋8 破損 105, 斃死牛馬25, 船33	延享3年8月24日 四国山陰諸国並江戸, 大風雨, 颱風調査報告 讃岐災異年表, 因府年表, 金地院日録
8	1749	寛延 2.	7. 2	8. 14	洪水莖永村平山田地多破損	寛延2年7月2日 山陰近畿諸国大風雨, 洪水, 因府年表, 因伯雜記, 続日本王代一覽 播磨余監, 姫路市史
	1753	宝暦 3.	5. 17	6. 19	大風島中倒家7, 破家55	
9	1755	宝暦 5.	7. 13	8. 21	大風多損田畑破船1 倒家26損家 127	
	1755	宝暦 5.	8. 24	9. 30	大風家屋破損倒家26	宝暦5年8月24日 九州, 山陰, 四国諸国大風雨, 石原家記, 有吉記録, 凶年蔵土穂, 続史愚抄, 因府年表, 岡山県通史, 松山叢談
	1758	宝暦 8.	7. 19	8. 27	大風家屋破損	
10	1774	安永 3.	7. 14	8. 21	大風倒壊家屋 152	
	1774	安永 3.	9. 1	10. 5	大風糸満船及び莖所船破船16	安永3年9月2日 丹後, 但馬諸国, 大風 続史愚抄
11	1778	安永 7.	7. 9	8. 4	自夜10日間大風倒家73	安永7年7月10日 日向大風雨, 日向国史 続史愚抄
12	1781	天明 1.	7. 27	9. 16	大風洪水田地 1,894石, 倒家82, 損 害家屋458, 斃死馬15, 斃牛15, 流船3	天明1年7月27日 近畿諸国大風雨, 続日本王代一覽, 摂陽奇観 熊野史

種子島に於ける風水害年表 (2)

番号	西暦	年号	年月日	太陽暦 月日	種子島家々譜による	日本台風資料による
13	1782	天明 2.	7. 15	9. 23	大風洪水倒家75	天明 2年 7月18日 江戸, 風雨, 金地院雑記, 台風調査報告
14	1806	文化 3.	7. 18	9. 2	中之郡大風倒家92	文化 3年 7月20日 江戸, 大風, 金地院記録
	1812	文化 9.	6. 10	7. 18	大風傷木	
15	1815	文化 12.	7. 4	8. 8	大風	文化12年 7月 6日 土佐, 播磨, 美濃諸国大風雨, 台風調査報告浦伏一札諸書
	1824	文政 7.	12. 3	1. 21	大風洪水茎永村岸崩 5名庄死	
16	1825	文政 8.	8. 13	9. 25	大風破船 2	文政 8年 8月14日 沖縄島大風高潮
	1827	文政 10.	11. 3	12. 20	旋風	
17	1828	文政 11.	8. 9	9. 17	旋風広30丈現和村大峯, 本立, 菖蒲平, 国上村倒家13	文政11年 8月 9日 九州山陰諸国, 大風雨洪水, 宝曆現来集, 杵島郡高潮災害志, 甲子夜話統篇
	1832	天保 3.	8. 18	9. 14	大風一島傷 2, 田園 1, 倒家90	
	1833	天保 4.	8. 20	10. 4	大風洪水, 松寿院夫人 200両恤窮	
	1835	天保 6.	5. 14	6. 10	大風庄死 1	
18	1836	天保 7.	7. 7	8. 18	西風大吹風又甚大船1艘灘破西之表花里崎同平山村海涯5放余西之村角倉崎18端余島間稻子浦艦船2難破	天保 7年 7月 9日 江戸風雨, 東京市史稿
	1844	天保 15.	10. 9	11. 19	雷震雹	
19	1849	嘉永 2.	7. 9	8. 26	自此月11日迄大風禾稼損失	喜永 2年 7月10日 四国諸国, 大風洪水, 日本災異史, 讃岐災異年表, 伊沢村史, 靈憲候簿
	1850	嘉永 3.	8. 15	9. 20	大風倒壊家尾 732	
20	1857	安政 4.	7. 29	9. 17	大颶在諸船皆覆没陸上所置八幡丸掀舞數因而敗壊	安政 4年 7月29日 摂津国, 大風雨, 西都郡史, 大阪府誌
	1869	明治 2.	8. 15	9. 20	大颶	

視程と視距離

藤本成男

似たような言葉であるが視程 (visibility) と視距離 (visual range) とは、どんなところに差があるのだろうか。

Glossary of Meteorology によると、視程は昼間の場合には空を背景とした比較的暗い物体、夜間は強さのわかっているなるべく集光性のない光源を対象物として、肉眼で見ることができしかもそれがどのようなものであるかを識別できる最大距離をいい、視距離 (これは気象の部門ではあまり使われないが、航空関係ではよく使われる) は、日光のもとで特殊な形の目標物とその背景との対照が観測者の識別能力の限界に等しくなる距離で、これは大気の減衰係数、目標物のアルベドと視角お

よび観測時における観測者の識別能力の関数である。

これだけでは視程と視距離とのちがいが、わかったようにいこうわからないというところであろう。ちがいという点に重きをおいて視程と視距離とを比較してみると、根本的には対象となる目標物の性質と背景の二点にあると思われる。すなわち、対象となる目標物の性質としては視距離の場合にはとくに条件はないが視程は自分を光を出さずまた光をあまり反射しない、つまり反射能の小さいものであること、背景については視程の場合目標物の方向の空をとっているが、視距離の場合には空に限らず周囲のものが背景になるので、そのとき、場所によって条件がちがうわけである。(気象庁予報課)